



傳設計ニュースレター

CONTENTS

- ◆今、伝えたいこと
～ウィズコロナ・
アフターコロナの対応～
- ◆設計から施工までの
発注形態の今
- ◆学校給食の在り方
- ◆耐力度測定調査って何？
- ◆RC造建物の”長持ち”に貢献
～株式会社麻生
建設コンサルティング事業部様～
- ◆能動的な早退を
取り入れました！
- ◆舞鶴探訪(7)
- ◆社員名鑑



今、伝えたいこと ～ウィズコロナ・アフターコロナの対応～

新年あけましておめでとうございます。昨年の今頃は、2020年は東京オリンピックが開催され、活気ある一年になりそうだと楽しみにしていたところでした。まさか、このようなコロナ禍という予期せぬ状況になっているとは思いませんでした。今も、第3波が来ており、先行きが見えない状況かと思えます。

弊社では、民間と公共系のお仕事をさせていただいております。民間のお仕事では、実際、このコロナ禍が原因で計画が中止となった事業もあり、設計業界も影響を受けております。公共系のお仕事も、今年度まではコロナ禍の前に予算が組んであったので、例年とあまり変わらない受注状況でしたが、来年度からは状況が変わってくるかと思えます。自治体も感染症対応措置、休業補償、家賃補助等の支援拡充、また、景気悪化に伴う税収の減少が予想され、財源不足になることが考えられます。そうなりますと、一般的に限られた財源で優先されるものは、福祉・医療系、防災系、子育て支援系、生活インフラ系となります。減らすとすれば、公共施設(ハコモノ)になります。



★コロナ禍により出張が減り
社内業務が増えました★

こういったなか、公共施設の在り方も変わってくるのではと考えております。公設公営が減り、公設民営、民設民営が増えてくるのではないのでしょうか。また、包括的民間委託(複数の業務や施設を包括的に民間事業者へ委託すること)も増えてくるのではないのでしょうか。単独もしくはJV(Joint Venture・共同企業体)、協力事務所での設計・監理業務の受注だけではなく、PFI(Private Finance Initiative・公共が直接施設を整備せずに民間資金を利用して民間に施設整備と公共サービスの提供をゆだねる手法)事業や民設民営としての一企業として参画することも重要になってくると考えております。

景気回復までに時間がかかるというのが専門家の一致した見通しです。また、コロナ禍が収束するまでに時間を要し、人々の行動パターンが変わり、その結果収束後も以前のように戻らず、企業の事業環境は大幅に変わるとも予想されています。このような状況に対応できるよう、資金流動性の確保、事業構造の再構築、ビジネスモデルの更新等を適時適切に図っていこうと考えております。改めて事業計画について見直すいい機会になったと思っております。(代表取締役 岩本 茂美)

岩本 茂美 (いわもと しげみ)

株式会社傳設計 代表取締役

《最近のこと》

手前味噌ですが、一度もインフルエンザになったことがありません。手洗い、うがいを徹底しているからかもしれません。その為「コロナにもかからない！」と言ってますが、周りからはそういう人が一番危ないと言われてます(笑)。何はともあれ、少々(？)酒にも耐えうる丈夫な体に生んでくれた親に感謝です！



★設計から施工までの発注形態の今★

今回は皆様が発注者になった想定で、設計(基本計画～基本設計～実施設計)・施工・監理までの一連の行為に関する発注方式について、民間事業で従来型と言える方式(A)と、昨今の時代性に沿って採用されることが多くなってきた方式(B)の2つをベースにお話します。

(A)設計施工分離方式

設計者が**実施設計図書**を作成し、それを基に複数の施工者により競争見積りを行い、工事施工者を選定する方式です。これは従来採用されてきた方式で、見積額が工事予算に合えば、予定通りに進められる利点があります。しかし、昨今の職人不足や、人件費・物価の高騰、コンプライアンス、そしてコロナの影響まで加わり、各社の慎重さが高まった結果、以前のような競争意識が期待できず希望する工事予算に届かないという実態が多く見られます。

完成していた設計図書を修正し、コスト削減などを余儀なくされ、改めて見積りを取り直す必要が生じ、そのタイムロスによって工期が遅れる要因となることが懸念されます。

(B)ECI方式(工事施工者が早期に参加する方式)

設計者が**基本設計図書**を作成し、それを基に複数の施工者に概算見積りの他、技術提案資料・スケジュール・コスト削減案などの提示を同時に求め、発注者は設計者の助言も受けながらそれらを吟味し、最良と思われる1社を**優先交渉権者**として施工予定者を選定します。選定された施工予定者は、工事契約を前提に実施設計の委託を受けた設計者に技術協力者として、実施設計を支援します。施工予定者が提示する価格で合意後、工事契約を結ぶことは他の方式と大きく変わりませんが、設計の段階より技術提

案の反映やコストコントロールを図れることから、コスト削減や工期短縮が期待できるため、(A)の懸念点が回避される利点があります。ただし、施工者は高い技術提案力やコスト削減へと繋がる経験と実績が必要となるため、発注者や助言する設計者は施工者を選考する見定めが重要です。他にもさまざまな発注形態がありますが、弊社ではその時々諸条件を見極め、納得いただける提案をいたします。今後皆様が発注者となった際の参考になれば幸いです。(藤田)

傳設計 設計業務

私が小学校・中学校に通っていた頃は、自校式といって学校内に調理場があり、ほとんどの学校がそこで調理をしていました。しかし、最近では複数の学校の給食を一括して調理し、各学校に配送するというセンター方式も導入されており、各学校で対応は各々となっているようです。

回300食以上、又は1日750食以上を提供する施設の場合)等といった適用基準が定められています。



学校給食では、運営するにあたり「学校給食衛生管理基準」、「学校給食実施基準」、「大量調理施設衛生管理マニュアル」(同一メニューを1



学校給食衛生管理基準では、汚染区域(検収室・保管室・洗浄室等)と非汚染区域(調理室・配膳室・洗浄後室等)を区分し、衛生的な作業工程及び、作業動線となるよう配慮する等のさまざまな衛生管理が求められています。また、調理後の食品は、適切な温度管理を

行い、調理後2時間以内に給食できるように努めることとあり、センター方式の場合だと配送のことも考慮する必要が出てきます。



子供達に、衛生的で美味しく温かい給食を提供するために、こんなに配慮されているとは設計業界に携わるまでは思ってもいませんでした。(上野)

★学校給食の在り方★

★耐力度測定調査って何？★

皆さんは毎年健康診断を受けていますか？また、身体の調子が悪いときは病院に行きますよね。

では、建物はどうでしょう？すぐ思いつくものでは「耐震診断」や「外壁調査」があるかもしれませんが。

私たち構造設計部全体で約4か月間、公立学校施設における建物の状況を把握するために行う「耐力度測定調査」という業務に携わりました。耐力度測定調査には大きく3項目あり、3項目を総合的に調査した結果、算出された各数値を乗じた

合計点をその建物が持つ現状の「耐力度」として評価します。



★基準書★

3項目の内容は、A. 構造耐力、B. 健全度、C. 立地条件で、満点の場合はA=100点、B=100点、C=1点となり「耐力度」=100×100×1=10000点となります。これらの調査は、A. 建物自体が現時点でどの程度の耐力があるか、B. 新築時以降にどの程度老朽化したか、C. 建物の立地条件はどうか、を調べるためにを行います。

では、調査を行った結果は何に反映されるのでしょうか。各地域によって総合評価である「耐力度」の考え方は異なると思いますので、一例ですが、「耐力度」の結果をもとに「これからも調査した建物を使用し続けられるか、それとも建て替えの時期にきているのか」を客観的に点数として評価できるものと認識しております。今回の経験を踏まえ、今後も同様な調査に携わっていきたい所存です。(堀内)



★柱の健全度調査★

NEW&HOT TOPIX

今回は、RC造建築物に関する調査業務でご助力をいただいている麻生 建設コンサルティング事業部様にお話を伺いました。

「弊社は、調査診断1G、調査診断2G、コンクリート技術G、試験所G及び環境Gの5つのグループで構成されています。

調査診断Gでは、建築分野において耐震診断の現地調査、材料試験などを行っています。土木分野においても、橋梁やトンネルなどの診断、



★調査中のRC柱★

設計を行っています。また、今年度から未知の環境下でも環境地図を作成することができる3D計測を行っています。コンクリート技術Gではコンクリートに関する幅広い分野でのご相談にお答えし、種々の実験業務や書類作成業務の指導あるいは代行をしています。

当事業部はJISの試験を実施する試験事業者として管理運営が適切である事業者(JNLA登録試験事業者)として登録されており、試験所Gではさまざまな試験設備を駆使し、強度試験、骨材試験などの試験業務を行っています。環境Gについては、環境関連事業において廃棄物を焼却した際に生じる灰を、セメントの材料として活用する事業の受注拡大に取り組んでいます。

麻生 建設コンサルティング事業部は資本社会のストックマネージメ

ント・アセットマネジメントへの貢献のためにセメント、コンクリートの分野で長年培った技術や判断力と豊富な設備機器を駆使し、最適なコンクリート構造物の調査、診断、試験を行っています。」



★強度試験の試験設備★

現状、高度経済成長期に建てられたRC造建築物の老朽化が問題視されています。麻生 建設コンサルティング事業部様は歴史ある建物を長く使う上で非常に心強い存在だと言えるでしょう。(松岡)

★RC造建物の“長持ち”に貢献 ～株式会社麻生 建設コンサルティング事業部様～★

